時事新報

驛遞局認可

明治十八年四月八日 (西暦一千八百八十五年) 水曜日

第九百三十七號

日曜日休刊

賞勲叙任

○明治十七年十一月[illegible]

敍勳四等賜旭日小綬章　從六位勳五等　上田有澤

○明治十八年四月六日

參議兼外務卿從三位勳一等伯爵井上馨

獨逸聯邦メクレンブルク シュヴェリン國大公殿下ヨリ贈與シタル グロース クロイツ グライヘン 勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

○明治十八年一月廿八日

任三等軍醫　三宅綾三郎

○明治十八年三月十八日

任三等軍醫　松田國雄

仝　細井鶴太郎

仝　武島務

仝　富岡保

仝　桑原東岸

仝　富田實

○明治十八年四月六日

兼任參事院員外議官補　工部權大書記官 正六位勳五等　福田重固

時事新報

佛國ノ共和政治

我輩ハ四月一日ヲ以テ佛國内閣辭職ノ電報ニ接シテヨリ忽ナニシテふれしねい氏大統領ノ命ヲ奉ジテ新内閣ノ組織ニ從事シタリトノ報ヲ聞キ忽ナニシテふれしねい氏ガ其新内閣組織ヲ辭シタリトノ報ヲ聞キ又忽ナニシテ共和黨ノてんすたんす氏ガ大統領ヨリ新内閣組織ノ依囑ヲ受ケタリトノ報ヲ聞キタルマデニシテ未ダ其後ノ報道ヲ得ザレバてんすたんす氏新内閣組織ノ結果トシテ佛國ハ一層主戰ニ傾ク可キ歟將タ平和ニ傾ク可キ歟我輩ハ之ヲ此瞬間ニ斷言スル能ハズ唯佛内閣交代シタリトアレバ其交代者ハ主義ト所見トニ於テ多少前内閣ニ異ナル所アラン果シテ然ラバ今後佛國ノ支那政略ハ和ニモ戰ニモ稍從來ノ方向ヲ變シ其方向ノ變化如何ハ必ズヤ東洋ノ國交上ニ影響スル所アル可シト推想シテ其次第ハ既ニ兩三日來ノ紙上ニ開陳セシガ今又其推想ノ進路ヲ變シふゑりー内閣辭職以來ノ出來事ハ佛國自身ニ向テ如何ナル激動ヲ與フ可キ歟ト思考スルニ譬ヘ佛國人ヲシテ共和政治ハ頻リニ當局者ノ交代ヲ促シ時ヲ以テ功ヲ責メザルガ故ニ遂ニ永遠偉大ノ業ヲ成サシムル能ハズトノ思想ヲ抱カシメ早晩共和政治ト云ヘル政体ノ運命ヲ危ウスルニ至ルコトナシトモ斷言ス可ラザルナリ今其故如何ト云フニ佛國ニテハ共和政治ノ實施トシテ政府ノ意見前後一個人ヨリ生ズルガ如キコナク時ノ議論ノ𢌞轉ニテ前後ノ脈絡ヲ絶ツコトアルガ故ニ國交政略上何事ニ就キテモ其當局者ヲシテ永ク其局ニ當ラシメ其成功ノ責任ヲ長日月間ニ負擔セシムルコナク頻リニ之ヲ交代セシメテ其交代ノ度毎ニ前功ノ一半ヲ奪ヒテ之ヲ水泡ニ歸スルノ弊ナキヲ得ズ試ニ兩三年以來佛國當局ノ事局ニ當リタル人物ヲ數フルニ文官ト武職トニ論ナク其交代ノ頻々タル實ニ驚ク可キ程ナリ初メ東京事件ニ就キ支那ト談判ノ局ニ當リタルモノハ時ノ外務卿ちやくーる氏ナリシガ同氏ノ説ハ專ハラ主戰急進ニ在リシヲ以テふゑりー氏宰相ヲ以テ外務卿ヲ兼任スルコト爲リちやくーる氏ハ遂ニ辭職シタリ又陸軍卿くむぺれん氏ハふゑりー内閣ト議合ハザルヲ以テ其職ヲ辭シれわーる氏之レニ代ル間モナク今回ノ内閣交迭アリタレバ外務陸軍ノ兩卿モ勿論交迭セザルヲ得ズ又顧ミテ在東洋ノ文武官タリシモノヲ見ルニ最初紅河境界ノ談判ハ當時北京駐箚公使タリシぶうりー氏之レニ任シタリシニ其談判佛國ノ意ニ滿タズトテ佛政府ハとりくう氏ヲ以テ之レニ代ヘ尋テぱとのーとる氏ヲ以テ又々之レニ代ラシメ其他えろー將軍ガ安南來着匆々本國ニ召還セラレタルガ如キ孰レモ一方ノ事局ニ當リテ其意見ヲ行フノ時ナク又其行事ノ成否ヲ判スルノ時モナキニ或ハ其職ヲ罷メ或ハ本國ニ召還シ時ヲ假シテ功ヲ責ムルノ工夫ナキガ故ニ屢バ行フテ屢バ廢シ大小ノ事功之ヲ十全スル能ハザルモノヽ如シ特ニ今度ノ内閣交代ノ如キ辭職内閣ト之レニ代ラントスルモノトノ間ニ何程ノ異議アリシニ起リシ歟其異議ノ距離ハ遂ニ相近ク可ラザルモノナルヤ如何、是レ亦未ダ判然セザルコトナラン然ルニ輕卒ニモふゑりー内閣ノ辭職ヲ促シ隣家ト喧嘩ノ最中ニ家内ノ兄弟相鬩キテ爲メニ其輕侮ヲ來スガ如キ成跡アルハ佛國朝野二三ノ政事家ハいざ知ラズ佛國人一般ノ感情ニ於テハ之ヲ心ニ慊シト爲サヾル可シ或ハ其不快ノ極端ニ至テハ程遠カラヌ十餘年前なぽれおん第三世ノ治世ヲ追想シ其治世ニ在テハ佛國ノ武威四方ニ輝キ英國ト聯合シテ强露ノ鋒ヲくりみや半島ニ挫キタルヲ始メトシ英軍ト同盟シテ北京城ヲ陷レ内ニ在テハ巴里城ノ盛觀、天下ノ美麗精工ヲ曲尽シタル有樣ヲ以テ之ヲ今日ノ事情ニ參照シ目下支那海ニ在ルくるべい提督ノ鋒、鋭ハ則チ鋭ナリト雖ドモ一擧北上スル能ハズ近クハ諒山ノ一敗ニテ堂々タル佛國ノ𨾁跡、支那兵ノ爲メニ驅逐サレタルコト等ヲ想考スレバ佛蘭西男兒ノ俠氣ニ於テ東望慨然タラザルヲ得ザルナラン其際或ハ往事ヲ想ヒなぽれをん三世ヲシテ今在ラシメバ、佛國ノ武威國光ヲシテ斯クマデ墜リ且ツ屈セシムルコトハアラザル可シト漸ク懷舊復古ノ念ヲ起シテ今ノ共和政体ヲ厭惡シ輕慓過激ニモ之ヲ變革セント企ツルモノナシト云フ可ラズ左レバ今後佛國ヲシテ新ニ内閣ヲ組織スルてんすたんす氏ノ意見若シ平和ニ在レバ勿論ノコ、或ハ一層主戰ノ傾キアラシムルモ即時赫々ノ功ヲ東洋ニ立テ以テ佛國人ノ鬱憤ヲ慰ムルニ非ズンバ能ク内部ノ人心ヲ鎮シテ共和政府ヲあるぷす山ノ安ニ措クコ能ハザル可シ兎ニ角ニ佛國共和政治ノ任ニ當ルノ諸士ハ今少シク心ヲ用ヒテ外ハ列國ノ侮ヲ禦キ内ハ人心ノ調和滿足ヲ買フノ工風ヲ凝ムルニアラズンバ屢々ノ患ヒニ折角打立テタル今ノ共和政治モ遂ニハ洪沙ノ上ニ築キタル城壁ト其運命ヲ同フシクスルノ恐ナシトモ云フ可ラザルナリ

雜報

○内務卿　松方參議兼大藏卿ハ一昨六日山縣内務卿不在中内務卿兼任仰付られたり

○學事巡視　文部省御用掛森參事院議官ハ一昨六日學事巡視の爲め京都大坂兵庫滋賀岡山廣島德島高知愛媛の二府七縣へ出張仰付られたり右に付文部權少書記官吉村寅太郎、仝御用掛青木保の兩氏は隨行を仰付られたり

○出張　參謀本部海防局長砲兵大佐黑田久孝氏は去月三十一日下ノ關幷に敦賀港伊勢灣へ海軍中佐田中綱常氏は一昨六日御用有之肥前國唐津長崎兩所及び豐前國門司浦へ孰れも出張仰付られたり

○渡邊工部少輔　美濃國大垣より伊勢國四日市へ鉄道支線の布設に付同少輔は來る十五日頃見分の爲め出張あすといふ

○縣令賞賜を受く　内海三重縣令は嚮ヌ長崎縣令たりし際舊佐賀藩加地子處分の事拮据勉勵措置宜きを得候に付爲其賞花瓶一對縮緬二匹を太政官より下賜したりと云ふ

○南内務書記官　内務權少書記官南一郎平氏は一昨六日鹿兒島縣御用掛兼勤仰付られたり

○測量課長　工兵少佐田坂虎之助氏は本月一日參謀本部測量局三角測量課長に補せられたり

○書記官兼勤　侍從子爵藤波言忠氏は一昨六日宮内省に於て福岡縣下行幸中書記官事務兼勤仰付られたり

○布哇代理公使　日本駐在布哇國總領事ロベルト ウォルカー アルウヰン氏は今般同國代理公使に任せられ且從前の通總領事の職とも帶ひる旨同國外務卿ウォルター エム ギブリン氏より外務省へ通知ありたりと

○東京府區部會　一昨六日午後四時廿分開會(議長招開)前日に續き土木費第二次會を開き横切下水浚渫費(千二百五十二圓餘)は常置委員の六百二十六圓に修正に竹町石造下水新設費(千〇三十四圓餘)ハ亦同委員の九百圓の修正に決し大下水修繕費(六千二百八十五圓餘)の内赤阪裏一丁目、新網町、築土八幡町、新小川町二丁目、市ヶ谷柳町、下富坂町、根津宮永町、同八重垣町、七軒町、馬道三丁目、湯島妻戀町、同朋町、猿樂町、藪研堀町、本所表町十五箇所、石垣又は板柵修繕費は三十一番(須藤)四十三番(大貫)五十番(志摩)六十七番(青木)及び常置委員の減額修正に唯根津宮永町、七軒町、本所表町は常置委員れ削除説に決し六時休憩同卅五分開會小破修繕費(四百六十三圓餘)ハ原案に大下水浚渫費(五千百七十圓餘)は常置委員れ二千五百八十五圓餘の修正ヌ決し據て延期せし橋梁費は調査相濟まざるに付直に區部會議諸費(二千四百五十七圓)に移り其内俸給と常置委員滿期改選の際甲乙兩人へ半箇月分支給する事に付多少議論ありしが終に三十番(松本)れ退職の者に限り半箇月分を支給し再選議員のものには其一月分月給の外支給せずとの説に決し雜給幷ヌ雜費は孰れも原案に決し衞生費(千百二十五圓)に移り此項亦原案に決し教育費(四千五百二十七圓)に移り棄兒費は三十一番(須藤)棄兒は年々增加するの勢わり抑も棄兒の增加は全く府民窮困の甚きに依る者よく乃ち棄兒の多少ハ府民が富の度數に從ふ者なりされば棄兒と減少せんとせバ府民の負擔を輕減せざる可からざる當局者に於ても豫て此等れ點に注意あらん事を希望すと述べしのみにて異議無く原案に行旅死亡人諸費も亦原案に行旅病者

費ハ常置委員の多
費(百四十一圓)ニ入
瓦斯燈費(一萬二千
し鑑區部會議諸費
くに決し閉會せし

○。○。○。

○脚氣病菌發見
く東京大學御用掛
究の調査に從事し
へき成績を得て左

脚氣病菌發

脚氣ノ病因ヲ探究
東京試驗所ニ於テ
諸器官ヲ檢視シ又
ノ血液ヲ採リテ試
挺子狀ノ分殖菌)
施シテ其ノ脚氣病
蓋脚氣患者數名ニ
ノ「バチルレン」ヲ
殊ノ培養料ニ之ヲ
得精密ニ其性狀及
見セラレサル一種
ク純粹ニ培植セル「
種シタルニ其ノ勤
テ發見セル内部諸
ル所ニ同シ加之此
バチルレン」ヲ繁
テ行フニ其ノ成績
ナラス是レ余ノ該「
リト認定スル所以
日更ニ精細ノ事實
ニ至ル迄質徵セル
左ノ如シ
脚氣病者ノ内部器官
べるつ及ぴくとるら
レハ今之ヲ略擧セ
脾、胃、小腸ニ於ケル
囊中ニ於ケル赤色
及筋質ノ淡色トナル
ル所ハ心臟筋質、肝
質、脊髓ノ軟化、其ノ
神經節細胞ノ縮小又
リ今回ノ試驗ニ於テ
キモノ少シト雖特
景況ヲ變シテ向ニ不
ル經界ヲ保タス且之
積スルモノアリ空
核及細胞塊ヲ含有ス
ヲ以テ中心管ヲ充塡
原アルヲ見ル是レ恐
ルモノナラン故ニ空
ニ屬スルヤ否ヤヲ明
核ノ堆積ニ於テモ白
リテ染色セス强ク光
シ傍ラ長短種々ナル
此ノ物體ハ神經纖維
「アニリン」色素ニ由
核「バチルレン」ヲ檢
テ熱ヲ與ヘテ少時之
兒齒保兒丁子油「カ
ルニ此ノ「バチルレ
有セル小泡ノミヲ明
又神經ノ横截面ニ於
發見セリ而シテ此ノ
作ルニハ大抵「バラフ
其ノ他又脊髓中ニ出
脚氣患者ノ血液ヲ檢
血液ヲ取ルハ大抵病
ノ昇汞溶液ヲ以テ能
先ツ二「プロセント」
ヲ施シタル小刀ヲ以
血液ヲ取リ恐ク必要
蒸餾硝子ニ上ボセ瑪